

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 土砂投入1年 海上とゲート前で抗議行動



カヌーチームの代表4人が抗議船のマイクで「自然環境を壊し、人殺しの基地を造ることは断じて許せません」などと自分の言葉で必死に訴え、抗議行動参加者に感動を与えました。

### 新基地予定地に約100体の遺骨が

具志堅さん やんばる統一連学習会で

やんばる統一連(仲本興真代表)は14日、遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松さん(写真)を講師に「遺骨のさけび」と題して学習会④を開催しました。具志堅さんは、「辺野古新基地建設の場所は、終戦直後に大浦収容所付近で死亡した遺体が今も約100体が眠っている。そこをコンクリートでつぶしてしまうことは許されない」と新基地建設は絶対に反対、と話しました。また、「戦前、天皇のために死ぬことは名誉なこと」と教育した理不尽な実態などをリアルに報告、参加者は“命どう宝”の教訓を再認識しました。



埋め立ての現状は、辺野古側の2区画だけで総量の1%程度。このテンポでは辺野古側だけで10年かかり、新基地全体が完成するまで60年もかかる。焦っているのは防衛局の側だ(北上田毅氏のブログから)

不屈の民意支える現場のたたかい

安倍政権が知事選の結果など県民の民意を無視し、辺野古への土砂投入を開始して1年目となる14日、ヘリ基地反対協は海上抗議行動を展開。カヌー31艇、抗議船8隻から「違法な土砂投入は直ちに中止しろ!」などと約100人が抗議の声を上げました。日本共産党の赤嶺政賢衆院議員、瀬長美佐雄県議はじめ多くの市町村議も参加しました。赤嶺議員は抗議船から、「土砂が投入されてもまだ1%です。県民のたたかいが安倍政権を追い詰めています。県民の不屈の民意を支えているのは現場のみなさんのたたかいです。」と激励しました。

**ゲート前でも90人が歌三線交え抗議**

この日、キャンプ・シユワブゲート前でも、県内各地から延べ90人の県民が抗議行動に参加。歌三線も交え、「美ら海を守ろう」と新基地建設工事の中止をめざし不屈にたたかう決意を示しました。

### 日曜日にカヌー教室開いています



毎週日曜日に辺野古の浜でカヌー教室を開いています。インストラクターが親切に教えます。12月8日には北海道のある法律事務所の弁護士と職員6人が初心者教室に参加しました(写真)。

参加費無料です。午前9時、辺野古漁港近くのヘリ基地反対協のテント2集合。事前連絡が必要です。

**連絡先 ☎090-1865-8536 キムさん迄**  
抗議船に乗船希望の方は名護共同センターに連絡を!  
※連絡先は、本ニュース最上覧をご参照ください。

### 民医連職員が共同センターで学習

東北・北海道の民医連事務職員のツアー26人が11月27日、名護共同センターで辺野古のたたかいの歴史と現状などレクチャーを受けました(写真)。参加した聴講生から感想が寄せられました。その要旨を紹介します。

#### 「イデオロギーよりアイデンティティー」が印象的

共同センターで沖縄のたたかいの歴史、基地問題、県民の意思、大集会など幅広く教えていただいた。中でも「オール沖縄」をめざして「イデオロギーよりアイデンティティー」という翁長前知事のスローガンが印象的でした。オスプレイ配備反対、普天間基地の県内移設反対などの「建白書」に全41市町村長・議会議員、県議会の各会派の長が署名押印



したという重さを深く感じた。驚くことに県議会各派の自民党幹事長も署名するなど保守、革新の立場はあっても、根本的に沖縄という自らの「郷土」を思う気持ちに基づいているところに「オール沖縄」の真髄を見た気がしました。